

学ぶための学習書の選び方

参考書・専門書の見つけ方

本を探すときに、何も目印のないまま探すことは無謀です。

そのため、まず何かしらの目印をつける方法を考えます。

① 知っている人に聞く

- 同級生・先輩・担当教授・LAなどに聞き、難易度ごとに分けておくと、選ぶ目安になる。
- 特に教授は分野における経験値があるため、快く教えていただけるでしょう。

② インターネットなどで評価の良いものを探す

- amazonなどのネット通販や各分野の個人ブログにオススメの本が理由付きで書かれている。

③ 図書館で探す

- 上2つでは足りないと思う場合、実際本を手にとってよいものを探す。

参考書・専門書の選び方

見つけてリストアップ出来たら1冊だけ読む本を決めます。

決める基準として例えば次の観点があります。

① 本の一章の目次と本文を見る

- 一章の流し読みでわからない場合は自分の能力よりレベルが高いので、1段階簡単な本を見る。

② 指定教科書・参考書・授業の表記と同じであるか確認する

- 理学分野では記号の表記が統一されておらず、対応記号を調べる手間が増える。

(例：線形代数学の単位行列は、「 E_n 」や「 I_n 」と書く派に対し「1」と数のように書かれた本もある。)

③ 前書きを読む

- 「先へ進む際に必要な前提知識」と「何を目的として書かれてあるか」を明記されている。
- 知識不足の場合はその前提知識を先に、または並行して学習する。
- 著者が目的としていることが、自分の求めていることと離れている場合は保留にする。

④ 絞り込んだ本を再度見比べて最も良いと感じるものを選択する

- まだ1冊に決まらない場合は、残った本で再度③を比較し自分に合っていると思うものを選択する。

本を選ぶ際の一例として参考にしてください。

方法は様々ですので、自分に合ったやり方を模索してください。